◆H

令和６年度　学校関係者評価結果
報告書

令和７年２月

学校法人　大志学園

専門学校　早稲田国際ビジネスカレッジ

2024年11月22日

専門学校　早稲田国際ビジネスカレッジ

早稲田国際ビジネスカレッジ 報告書

第一議題

専門学校早稲田国際ビジネスカレッジ 2024年度活動報告

（令和6年4月1日～令和7年　月　日現在）

1.　概要

昨年度からデザイン総合学科にデッサン、色彩を重点的に教育するデザインコースを設けテキスタイルデザイン教育だけに留まらない教育を行っている。このコースを設けることでデザインを学びたい学生を受け入れ教育を行っている。

(1)教育について（デザイン総合学科）

①デザイン案を考える際、市場調査を繰り返し複数案提案する。提案されたものを拡大・統合・整理を繰り返しながら制作を行うことで、デザインを研鑽し完成に近づけていく。この試みは現場と同等の仕事の進め方を行う事で即戦力として対応できる人材を育てるために行っている。

②学校オリジナルブランド「志」を2020年発足、制作だけに留まらず販売方法を実践で学ぶ教育の場として活用している。卒業後に作品販売や独立を見据えた教育を行うことで自立できる人材育成を行っている。主にアクセサリーやレザークラフト授業課題で制作した作品を販売、キャッチコピーから販売するために必要な掲載内容を授業で考え実践している。また作品撮影と photoshop を使った写真加工技術を学びサイト上に魅力的な写真を掲載することをこころがける教育を行っている（添付資料1）

③作品作りを行う際、最初から最期まで自分の手を使って制作を行っている。この実習を行うことで製造工程の理解につながり、製造工場との対話や生産管理に直接つながる知識を得ることが出来る。（添付資料2）

④デザイン総合学科と国際コミュニケーション学科でランチ会を行い、他学科と交流することができた。以降時期を変えてランチ会を開催し、コース間の交流も行った。（添付資料3）

(2)教育について（国際教養学科・国際情報学科）

①今年度はコロナ禍を脱し、コロナ前と変わらない教育を展開することができた。そのた

め、スポーツ大会や早慶戦観戦などもかつてと同じような自由度の高いイベントとして実施することができた。(添付資料 3-1)
②デザイン総合学科の学生とコラボレーションを行い、オリジナル T シャツの制作体験を行うなど、学内の他学科との交流を実現することができた。(添付資料 3-2)
③9/20・21 日においては富士山に近い宿泊施設に 1 泊 2 日の勉強合宿を行い、学生達のモチベーションの向上・教職員との関係の強化を実現することができた。
(添付資料 3-3)
④学生の運動不足や蓄積したストレスを解消する必要があると考え、昨年度に引き続きリフレッシュサポートと称して学生達の心身のリフレッシュを図る取り組みを積極的に行った。例えば、定期的に卓球台のある部屋を開放し、学生と教員が交流を図れる機会を設けたことで、関係構築につなげることができた。
(添付資料 3-4)

4 段階評価平均［4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切］

【指摘事項】

評価項目（教育について）	評価（4～1）
専門分野の特性が明確になっているか。	
現場に即した授業をしているか。	
卒業後の事を考慮した教育がされているか。	
コロナ禍に対応した授業をしているか。	

（3）教育連携の強化（デザイン総合学科）
制作に夢中になる事が多く勉強熱心な一面、自分の将来像や目標が明確化されていない学生も多数いる。現場での仕事の理解と目標に向かう意識を高めるために、今最も活躍しているデザイナーの方を招き仕事や制作への取組を話していただくことで意識向上につなげる。
（下記の活動報告参照）

2.主たる活動報告

(1)教育連携報告

①アーティスト、デザイナー特別講座を開催

【特別講座】MAITO DESIGN WORKS　小室真以人(9/12、26)　（添付資料 4）

小室真以人氏は草木染の会社マイトデザインワークスを経営しているテキスタイルデザイナーです。現在の繊維業界は作り手が徐々に減ってきており、日本伝統の技法が失われつつあります。マイトデザインワークスではその技法を取り入れ、現在のプロダクトに形を変える試みを行っている会社です。授業では全 3 回に分けて草木染の染実習を行っていただきました。草木の煮出しから生地染の実習、染色に関しての講義、会社の話と内容は多岐に渡り学生のモチベーションの向上につながった。

【特別講座】株式会社川島織物セルコン(11/5)　（添付資料 4）

昨年度卒業生が就職した株式会社川島織物セルコンにお越しいただき、デザイナーの仕事内容やカーペットの開発、デザイナーのスキルアップのお話を伺いました。株式会社川島織物セルコンは創業 180 年を超すテキスタイルの老舗ファブリックメーカです。当日は卒業生と開発部の方、人事部の方も学校にお越しいただき様々なレクチャーを受けました。在校生から「インターンシップの有無」や「ポートフォリオを見てほしい」といった質問があり活気のある時間となった

【特別講座】岡本昌子(12/5~11)　（添付資料 4）

手紡ぎ手織作家として活躍している岡本昌子氏を招き、織授業を行っていただきました。自分の手を使って羊毛を紡ぎ、その糸を使って生地を織る体験は非常に興味深く、
学生アンケートでは、「真剣に“教えよう”という気持ちが伝わってきて、真っすぐさを感じるところがとても好きです。」、「繊維から糸にする作業をしたことがなかったので、難しかったけどそこが一番よかったです。」、「ウール製品を創る過程で、みんなで助け合い、学び合える雰囲気がとても好きです。」、「今までは糸から作品を作っていたけど、その糸がどうつくられるのか体験できてよかった。」など高評価が得られた。

（2）教育連携の強化（国際教養学科・国際情報学科）

他大学の先生方や担当者をお呼びし、進学対策やキャリア支援を中心とした教育連携の強化を図った。入学する留学生の日本語レベルが高いため、当校を卒業してから大学や大学院に進学したり、将来的な有名企業への就職を目指す学生が多いことが特徴である。

①難関大学進学セミナー

難関大学の入試担当者や教授が来校し、学校説明会や特別講義を実施

（参加大学）立命館大学大学院(8/29)、慶應義塾大学(10/5）、国際基督教大学(10/18)、東京理科大学(10/26)、

4 段階評価平均［4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切］

評価項目（教育連携の強化について）	評価（４～１）
教育活動に則った外部講師を呼んでいるか	

【指摘事項】

第二議題

デザイン総合学科事業報告

1.専門課程報告

在籍者デザイン総合学科テキスタイルデザインコース基礎クラス 1 年 23 名、2 年 9 名、経験者クラス 1 年 3 名、デザインコース 1 年 16 名、2 年 1 名　合計 52 名
卒業後の進路として就職・進学・独立の 3 本柱を中心として募集に力を入れる。

2.卒業後の進路

（1）2024 年度就職実績（2025/2/28 時点）
就職希望者 5 名中 3 名内定
友禅工房　堀部 1、シロテックス株式会社 1、タケミクロス 1、他テキスタイル別業種 1

(2)2024 年度合格実績（2025/2/28 時点）
東京造形大学　大学院 3 名、多摩美術大学　学部 1 名、神戸芸術工科大学　大学院 1 名、学部 1 名

3.授業内容

最初から最期まで自分の手を使い、テキスタイル制作する事で 1 枚の生地を作る過程を把握する事ができる。データ制作の際は Photoshop を使用することで、技術修得することができる。この体験を得て卒業した学生は生産工場とやりとりすることが出来、アドバイスや工程改善を提案することが出来る。また生産現場で使用している機械は、手作業で行っている事を自動化したものであるため製造工程の理解は大事な基礎となる知識である。
(1)プリント実習
リピートデザインの知識から版制作、捺染、洗いまでの過程を学校内で全て完結する事が出来る。市場に出回っているプリント生地と同等のものを学校内で制作することが可能である。ここで出来上がった生地を縫製業者へ依頼して雨傘を制作、生地だけでなく製品イメージをつかむことも行っている。(添付資料 5 参照)

(2)織実習
オリジナルデザインを制作、様々な組織の実習体験と糸の染色を通し織生地制作することが出来る。ここで制作した生地を縫製することでオリジナル衣裳や雑貨を制作することが可能である。(添付資料 6 参照)
(3)友禅実習
友禅の基礎体験から帯制作、学年が進むとパネル制作等　友禅制作に必要な知識を学ぶことが出来る。担当講師は作家として長年の経験があり、作品制作だけでなく物創りへの心構えを含めたアドバイスを行っている。(添付資料 7 参照)

(4)アパレル企画
制作物の企画から上代設定、製品名の付け方といった企画を立てるための授業。ボード制作から発表までを行い企業に入った際、役立つ経験として企画の立て方からプレゼンテーションまでを学ぶことが出来る。今年度はジャパンクリエーションへ見学に行き、企業から発表された生地に興味が湧いていた。

(5)EC サイト
写真撮影、写真修正、ネットへの掲載方法等を学ぶ。ここで写真の撮り方から修正を学ぶことで個人活動する際に必要な知識を学ぶことが出来る

(6)アクセサリー実習、レザークラフト実習
今年度からスタート、テキスタイルは平面作品が多い中で立体感覚とコーディネート感覚を養うための授業。立体物を実際に制作する過程で、立体感覚を身につけ将来自分がデザインした生地が製品になる際のイメージを身につける。ここで制作した作品を学校ブランド【志 kokorozashi】で販売する。(添付資料 8 参照)

(7)タフティング実習
今年度からタフティングの機械を導入しラグ制作に取り組んでいる。織の技術で作るラグと異なり短時間で絵を描くように作れるタフティングに学生が夢中になって制作していた。(添付資料 9 参照)

(7)卒業制作
展示方法や企画、展示に使う備品等を実践で学ぶことができる。
今年度は卒業制作中間発表を 2 回開催して、早くから卒業制作に対する意識を持つことが出来た。
今年度作品展実施　2025 年 2 月 21 日～3 月 6 日　佐藤美術館(添付資料 10 参照)

4.高等学校への出張授業（添付資料 11 参照）
人が成長するためには「知育」とともに心を育てる「情操教育」が必要になってきます。実習をして手を動かす授業を体験することで様々な感情が得ることができる。
温故知新・愚行移山・一意専心をテーマに染色体験を通して心の成長に繋げていく教育を行っています。また認知度の低い「テキスタイル」という言葉を拡げていく活動の一環として取り組んでいます。高等学校名は割愛(添付資料 11 参照)

5.高校生職場体験受け入れ
東京都教育庁からの依頼があり「都立高校生のための職場体験ジョブキャンパス 2024」に参加しました。この企画は東京都教育庁が都立高校生に向けて、企業研修体験を行う企画です。参加する高校生は 200 以上ある企業、学校から興味のある体験プログラムを見つけ、２日間の職場体験に参加して将来の自分を創造するプログラムです。当校はデザイン、韓国語、e-sports の 3 分野でエントリーして 10 名の高校生が参加しました。
(添付資料 12 参照)
6.学外授業
学内の授業だけに留まらず学外展示やイベントを通して、発表する喜びやデザイナーとしての体験を持たせる。生産現場を見学し自分が動かしている織機と現場の織機の違いや共通点を認識する。生産現場が分担している事を見学し認識する
(1)スケッチ旅行
2024 年 7 月 1 日
鹿島臨海公園水族館に日帰りスケッチ旅行に行きました。実際に動く魚を素描するには技術と速さが必要です。教室を出て行う、素描は大事な基礎勉強です。在校生は教室を出る解放感と動く魚に苦心しながらも充実した一日を送ることが出来た。

(1)注染体験（添付資料 13 参照）
2024 年 10 月 16 日、23 日、11 月 6 日　全 3 回開催

株式会社ナカニが運営している手ぬぐいブランド「にじゆら」の工房へ赴き、注染体験を行った。注染は手ぬぐいを染める技法で特殊な設備を要するため当校では行えなかったため、にじゆら工房へ行き、注染の糊置きから染までを体験した。この体験をすることで手ぬぐいのデザインをする際に注染の長所短所をイメージすることが可能になり、今後のデザイン制作に繋げることができる。

(2)第 3 回全国学生絞り染織作品展（添付資料 13 参照）
2024 年 11 月 17 日～26 日　横浜馬車道アートギャラリー
全国の美術大学、専門学校 21 校が参加、絞り技法を用いた作品が展示されました。
テキスタイルデザインコース学生が参加し、来場者を楽しませることができました。

(2)染の小道 2024（添付資料 14 参照）
2025 年 2 月 21 日～2 月 23 日開催
新宿区中井・落合を中心に開催する染色イベント
テキスタイル学科は 8 店舗を担当、暖簾制作を行い各店舗に展示
学生は各店舗に調査へ行き、店舗イメージや店舗の成り立ち客層を聞き取り調査、ここで調査した内容をもとに暖簾制作を行う。
藍染体験のワークショップを 2 日間開催（添付資料 15 参照）、昨年 94 名参加に比べ今年は 157 の方が参加した。また学生スタッフが藍染指導と参加者対応したことで学生自身の心の成長にも繋がることが出来た。

(2)卒業制作展
2025 年 2 月 21 日～3 月 6 日開催
公益財団法人　佐藤国際文化育英財団　佐藤美術館で展示、卒業制作作品以外に通常授業で制作した作品も展示予定。会場で講評会を行い、参加学生の意識向上につなげた

国際教養学科・国際情報学科事業報告

1.専門課程報告

在籍者国際教養学科 1 年 71 名（内留学生 71)、2 年 53 名（内留学生 53)、国際情報学科 1 年 34 名（内留学生 34)、2 年 14 名（内留学生 14）　合計 172 名

卒業後の進路として進学・就職に力を入れる

1.卒業後の進路

進路就職先割愛

2.授業内容

（1）専門科目

国際教養学科は異文化理解、比較文化論、国際経営、国際協力など、国際関係や教養系の科目を中心に指導し、国際情報学科は国際情報、国際ビジネス、コンピュータ概論、情報処理、プログラミングなど主に IT 関連の専門科目を指導した。

（２）進路対策

進学にも就職にも対応できるように、ビジネスマナー、資格検定対策、キャリアデザイン、ライフデザインなど、将来を見据えた科目を指導した。

（3）日本留学試験、大学受験対策

大学受験を希望する留学生を対象に、日本の共通テストに該当する留学生用の日本留学試験対策（日本語、政治経済、地歴、数学、理科)、大学受験対策として小論文、大学院希望者向けには研究計画書の作成、プレゼンテーションなどの科目を指導した。

4 段階評価平均［4:適切　3:ほぼ適切　2:やや不適切　1:不適切］

評価項目（事業報告について）	評価（４～１）
学科の内容に即した授業を行っているか。	
実習における基礎教育を行っているか。	
卒業後の進路に力をいれているか	

【指摘事項】

3.今後の取組

(1)学外活動の活性化

今年度から始めた「注染体験」を次年度も開催し技法の理解と今後のデザイン案に繋げる「デザインフェスタ」は申込みスペースの関係で参加することが出来なかったため、規模を縮小し参加できるように試みる。

(2)特別講座の開催

テキスタイル作家の岡本昌子氏を招き、糸紬から織までの特別実習授業を行い繊維と織の知識を身につけ作品制作向上につなげる

草木染製品の会社を設立している小林真以人氏を招き。染液の煮出しから染色までを実践を伴った授業を行い知識向上につなげる

(3)タフティング実習の開催

新たな実習授業としてタフティングを取り入れる。近年人気のある実習でワークショップも盛況であるタフティング、この実習を取り組み更にテキスタイル表現領域を拡げる試みをする

(4)対外的な活動への積極的な参加

外部の作文コンクールへの積極的な参加や地域清掃をはじめとしたボランティア活動に学科全体で参加するなど、対外的な活動にも力を入れ、学生に社会貢献としての場を提供していく。

(5)広報施策

Instagram、X、Facebook、小紅書、などＳＮＳを今後も活用しデザイン総合学科の周知に努める。今年度から始めた TikTok も大事なツールである。動画投稿を増やし、ＳＮＳ利用者が認知しやすい投稿を続ける

4 段階評価平均［4:適切　3:ほぼ適切　2:やや不適切　1:不適切］

評価項目（今後の取り組みについて）	評価（４～１）
学校外の協会等と連携をとっているか	
地域に対する取組を行っているか	

【指摘事項】

以上